

# 令和3年度 学校評価報告

草加市立青柳小学校

(令和4年1月28日作成)

<b>1 学校教育目標</b> あ…明るく元気な子 お…思いやりのある子 や…やりとげる子 ぎ…きたえる子	
<b>2 重点目標・努力目標</b> ・基礎基本の徹底 ・ICTの活用 ・草加市「授業の5か条」の徹底 ・図書の貸出一人平均50冊 ・体育朝会とロング昼休みの活用（体力向上） ・学級経営の充実	<b>3 前年度の成果と課題</b> 成果 ○学校評価では「いじめをせず、だれとでもなかよく生活している」「学校での様子を家で話している」において肯定的回答が増加した。 課題 ●いじめ、不登校のない学校を目指し、組織的な対応を充実させる。

<b>4 評価表</b> ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	B	○校長の学校経営方針に基づき職員会議を適切に運営し、全教職員が協力し合って学校運営に取り組むことができた。 ●校務分掌組織の改善
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	B	○校内研修等での学びを日常の授業に生かすことで、教員の授業力が向上してきた。 ●学校課題の解決に向けた研修の充実
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○保健・安全計画をもとに、課題に対して適切に対応することができた。大きな事故、怪我は発生していない。 ●むし歯治療率の向上
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	A	○倫理確立委員会や職員会議を通して教育公務員としての在り方について指導し、事故0を継続することができた。 ○安全点検で不具合があった箇所について計画的に修繕できた。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	B	○学校だより等で児童の様子を家庭・地域に発信することができた。 ●家庭・地域との連携をさらに深め、地域と共にある学校づくりを進めていく。
	⑥幼保小中を一貫した教育	・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	B	○中学校教員による乗り入れ授業（算数・体育）を通して、教科の系統性を意識した指導を行うことができた。 ●コロナ禍における幼保小中間の交流方法を工夫していく。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>15年間を通じたカリキュラムの編成、実施</li> <li>教育計画の作成</li> <li>教育活動の評価</li> <li>目標、方針の周知</li> <li>授業時数の配当、確保</li> </ul>	A	<p>○学校評価の反省をもとに教育課程を編成し、教育活動の充実を図った。</p> <p>●「主体的・対話的で深い学び」に関する取組をさらに進めていく。</p>
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善</li> <li>評価、評定の工夫</li> <li>外部人材の活用</li> </ul>	B	<p>○見通しと振り返りのある授業を行い、基礎学力の定着を図ることができた。</p> <p>●基礎・基本の確実な定着に向け、指導法の工夫・改善を図る。</p>
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体計画の作成</li> <li>各教科との関連</li> <li>道徳的実践力の育成</li> <li>家庭、地域社会との連携</li> <li>いのちの教育の推進</li> </ul>	B	<p>○道徳科の指導法について研修を深め、授業改善を図ることができた。</p> <p>●評価についてさらに研修を進めていく必要がある。</p>
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>指導方法の工夫と改善</li> <li>評価、評定の工夫</li> <li>各教科、道徳教育との関連</li> <li>中学校との連携</li> </ul>	B	<p>○ALTと連携して効果的に授業を行うことができた。</p> <p>●教材活用及び指導方法について研修を深める必要がある。</p>
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>学級活動、学級経営</li> <li>学校行事</li> <li>児童会活動</li> </ul>	B	<p>○感染症に配慮しながら、できる範囲で児童同士の交流を深めることができた。</p> <p>●学級活動を通して学年学級経営の充実を図る。</p>
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>指導内容の充実</li> <li>指導方法の工夫と改善</li> <li>評価の工夫</li> <li>地域の人材・物的資源の活用</li> </ul>	B	<p>○感染症に配慮しながら学習を進めることができた。</p> <p>●学校の特色を生かした内容の充実を図る。</p>
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織的な生徒指導</li> <li>問題行動への対処</li> <li>教育相談、児童理解</li> <li>いじめ防止対策</li> <li>保護者、地域、諸機関との連携</li> </ul>	B	<p>○いじめ防止対策委員会や生徒指導委員会を通して課題を全教職員で共有し、指導に当たることができた。</p> <p>●積極的な生徒指導の充実をしていく。</p>
	⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画の立案</li> <li>指導内容の充実</li> <li>中学校との連携</li> <li>啓発的経験の充実</li> <li>家庭、地域との連携強化</li> </ul>	B	<p>○キャリアパスポートを年間計画に設定し計画的に進めることができた。</p> <p>●中学校との連携を深める必要がある。</p>
	⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別の指導計画、支援計画</li> <li>指導方法の工夫と改善</li> <li>通常学級との交流</li> <li>諸機関との連携</li> <li>校内支援体制の整備</li> </ul>	B	<p>○個別の支援計画をもとに課題のある児童に対して個に応じた指導を行うことができた。</p> <p>●学級学年内での自己存在感を高めていく必要がある。</p>
	⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画、支援計画の作成</li> <li>図書館補助員の活用</li> <li>諸機関との連携</li> <li>図書館の整備</li> <li>図書館利用の工夫</li> </ul>	A	<p>○図書館司書による図書館の整備により読書活動の意識が向上し、貸出冊数が増加した。</p> <p>●図書館教育の充実を図る。</p>
	⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育計画の作成</li> <li>校内研修の充実</li> <li>ICT機器の積極的な活用</li> <li>情報モラル教育の推進</li> </ul>	A	<p>○タブレットの活用を推進し、オンラインでの学びを充実させることができた。</p> <p>●教員間のリテラシー格差を解消するための研修が必要である。</p>
	⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体計画の策定</li> <li>各教科との関連</li> <li>人権感覚の育成</li> <li>校内研修の充実</li> </ul>	B	<p>○計画に沿って、各学年で人権に関する授業を実施することができた。</p> <p>●人権感覚育成プログラムを生かした授業の充実を図る。</p>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色ある学校づくり	幼保小中を一貫した教育の推進	・中学校教員の乗り入れ授業 ・幼稚園、保育園との交流学習 ・3校合同研修	B	○乗り入れ授業を通して、中学校教員から教科の専門性を学んだ。児童は中学校生活への見通しをもつことができた。 ●感染症の拡大を防ぎながら計画を立案する。
	読書活動・家庭学習の充実	・児童貸し出し冊数平均50冊	A	○朝読書の時間や図書館での授業を通して読書に親しむことができている。 ●児童が読む本の内容の充実を図る。
	特別支援教育の推進	・関係機関との連携、活用 ・さわやか相談日の活用	A	○巡回相談やスクールカウンセラーとの相談を活用し、児童個々の実態に応じた支援を行うようにしている。 ●児童の特性を生かすため特別支援教育の視点を生かした指導力の向上を図る。

**5 総合評価** (学校関係者評価を含む)

- 高学年では一部教科担任制を実施しており、学級・学年の枠を超えて指導することができた。
- 小中間の連携として、乗り入れ授業を行ったことで中学校への意識の向上を図ることができた。
- 感染症拡大防止に向けて児童の健康観察等を行い組織で対応することができた。
- 学校評価では「いじめをせず、だれとでもなかよく生活している」「学校での様子を家で話している」の設問で、肯定的な回答をする児童が増加した。

**6 次年度の改善策**

- これまで取り組んで来た読書活動について、さらに推進し、本を読む機会が少ない児童にも興味を持ってもらえるように取組を進めていく。
- いじめ、不登校のない学校を目指して生徒指導、道徳、人権教育を中心として教育活動を充実させ、児童一人ひとりが、安全安心な生活をする事ができる学校の組織体制にする。